

分野	主要な道路の整備			事業番号	38	事業名	道路改築(地方道)		
市町村名	佐久市	ふりがな箇所名	いちみぶんなかごみせん(一)三分中込線		みぶん-ひらが三分平賀		事業年度(完了年度は見込み)	年度~	年度
事業概要	計画概要(延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L=3.5km W=6.0(10.0)m					H23年度末事業進捗率	0%	
	H24年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%	
	H24年度実施内容	-					用地補償費ベース	0%	
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降			
財源内訳	事業費計(千円)	800,000	0	0	0	800,000			
	国庫支出金	440,000	0	0	0	440,000			
	その他								
	県債	252,000	0	0	0	252,000			
	一般財源	108,000	0	0	0	108,000			
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価			ランク	評点		
	必要性(30)	計画交通量	10,000台/日以上	1,500台以上~10,000台/日未満	1,500台未満	B	2		
		代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある			0		
		ネットワーク(道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある	駅やインターチェンジが20km以上にある	駅やインターチェンジに通じる路線でない			5	
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない			5	
			観光地に通じる道路	観光地に通じる道路ではない			0		
		各事業特有の必要性(安全の確保)	5.5m未満又は60m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)	5.5m以上6.5m未満(幅員)	6.5m以上(幅員)			2	
			自動車と自転車・歩行者との分離を図る	歩道はあるが不十分であるものを再整備	自動車と自転車・歩行者との分離がなされていない			4	
	小計					18			
	重要性(15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)	該当なし	C	4		
		設計上の環境・景観配慮	環境・景観配慮がされ確実性が高い	環境・景観配慮がされているが確実性が低い	環境・景観配慮をしていない		2		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている	緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪地域、過疎地域、地震防災対策強化地域、観光圏整備実施計画認定地域に位置付けられている	特別な位置づけはない		0		
		小計					6		
	効率性(15)	費用対効果	B/C(3便益)1.0以上	B/C(3便益)1.0未満(3便益以外の観点から一定の効果を得られる)	B/C(3便益)1.0未満	A	3		
		事業効果の早期発現(H24以降事業年数)	事業年数 5年未満	事業年数 5年~10年未満	事業年数 10年以上		3		
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない		7		
		小計					13		
	緊急性(20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	B	4		
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所又は騒音・振動箇所が緩和する	渋滞箇所又は騒音・振動箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する	渋滞対策又は騒音・振動対策ではない		5		
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に関係ない道路		5		
小計					14				
計画熱度(20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	C	5			
	事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない		0			
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加	住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない		4			
	小計					9			
費用対効果(B/C)		1.8	評価の合計			B	60		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、南佐久郡と佐久地域を結ぶ千曲川右岸の補助幹線道路である。本路線の南側は海瀬~羽黒山B.P及び入沢~三分B.Pにより整備され、将来交通量の増大が予想される。しかし、入沢~三分B.Pの北側終点は、下仁田白田線の人家連担の歩道のない狭帯部分とのT字交差点であり、佐久方面への大型車の通行に支障をきたすことが危惧されており、その先線の整備が求められている。							
	地域からの要望経緯	毎年開催される佐久市との意見交換会など、様々な機会において要望を受けている。							
	事業説明等の経緯	平成23年度に入沢~三分B.Pが完了予定であり、地元説明会等において、先線計画について説明を求められており、今後地元計画を提示していく予定。							
	環境・景観への配慮項目	農道を最大限利用するなど、環境上の配慮を計画していく予定。							
	他事業・プロジェクトとの関連	長野県中期総合計画(調査検討)に位置付けられている。							
特記事項	特になし。								
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他				
部意見	国道141号を補完する千曲川右岸道路として重要な路線であり、効率性の評価レベルは高い。今後計画熱度を高め、事業化を検討したい。			政策評価課意見	計画熱度がやや低い。				